

全国の看護小規模多機能型居宅介護アンケート

株式会社メディヴァ
ナースケア・リビング世田谷中町
山田翔太

2023年6月24日

日本在宅医療連合学会 COI 開示

山田翔太

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある 企業などはありません。

1. アンケート概要
2. 事業所形態
3. 収支の視点を踏まえた分析


背景と目的

- はじめに

看護小規模多機能型居宅介護（以下、看多機）は2012年に創設して以来、医療と介護が連携した地域包括ケアの中心となり得るサービスであると期待され、看多機は平成31年時点で、全国で531ヶ所の事業所が運営し、その数は年々増加しております。また、受給者数も増加しており、高齢者の居宅での生活を最期まで支えるという需要に対して供給も進んでいると考えられます。

- 全国の看多機運営の実態を把握するため

- ✓ サテライト型含めて事業所の数が増していく中、看多機の平均登録者数は21名（登録定員上限29名）、に留まり、約半数の事業所が赤字経営を余儀なくされています。
- ✓ 令和3年度介護報酬改定においては医療依存度が高い利用者に対するケアに対してより一層の評価を設けている一方で、看多機が健全に普及していくためには、より一層実態に即した介護報酬や制度改築の必要があると考えます。
- ✓ これらを踏まえ、新設された加算が実際に算定されているかを把握するとともに、在宅医療や他医療サービスとの関係性、経営実態を調査するために、本アンケートを実施致しました。



新設された加算が実際に算定されているかを把握するとともに、在宅医療や他医療サービスとの関係性、経営実態を調査した

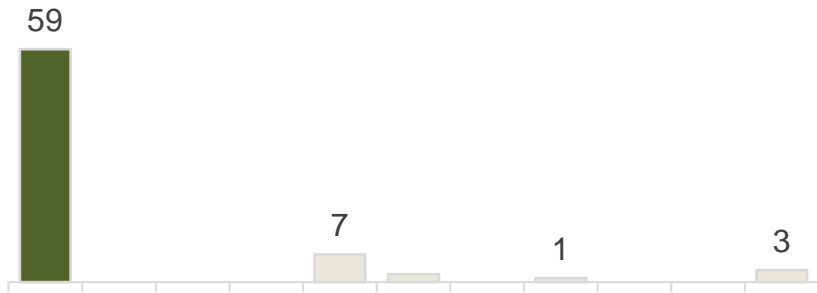
アンケートの概要

調査実施者	株式会社メディヴァ
調査対象	全国の看護小規模多機能型居宅介護事業所 (2022年11月29日時点で各都道府県の介護サービス 情報公表サイトに情報掲載があった事業所)
配布と回収方法	FAX
配布日	2022年11月30日
回収期限	2022年12月7日
配布数	849件
回収数	73件
有効回収数	73件

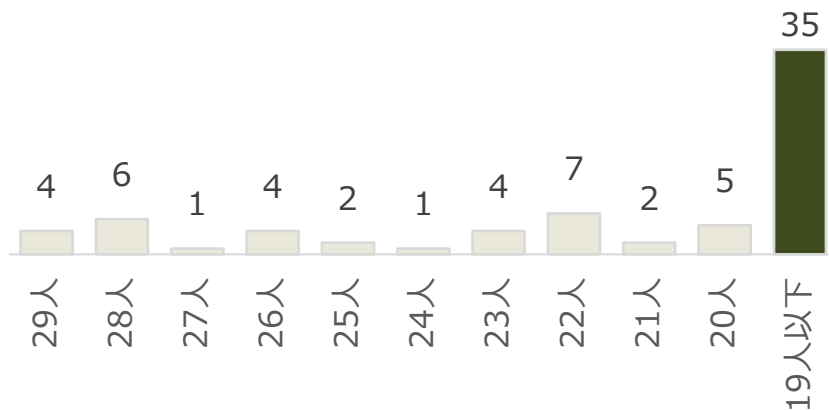
利用者数と訪問診療

- 登録定員が29名の事業所が大半を占めるが、2022年10月の利用者数については、19名以下の事業所が多く、半数の事業所において、利用者の40%未満しか訪問診療が入っていない。

登録定員数

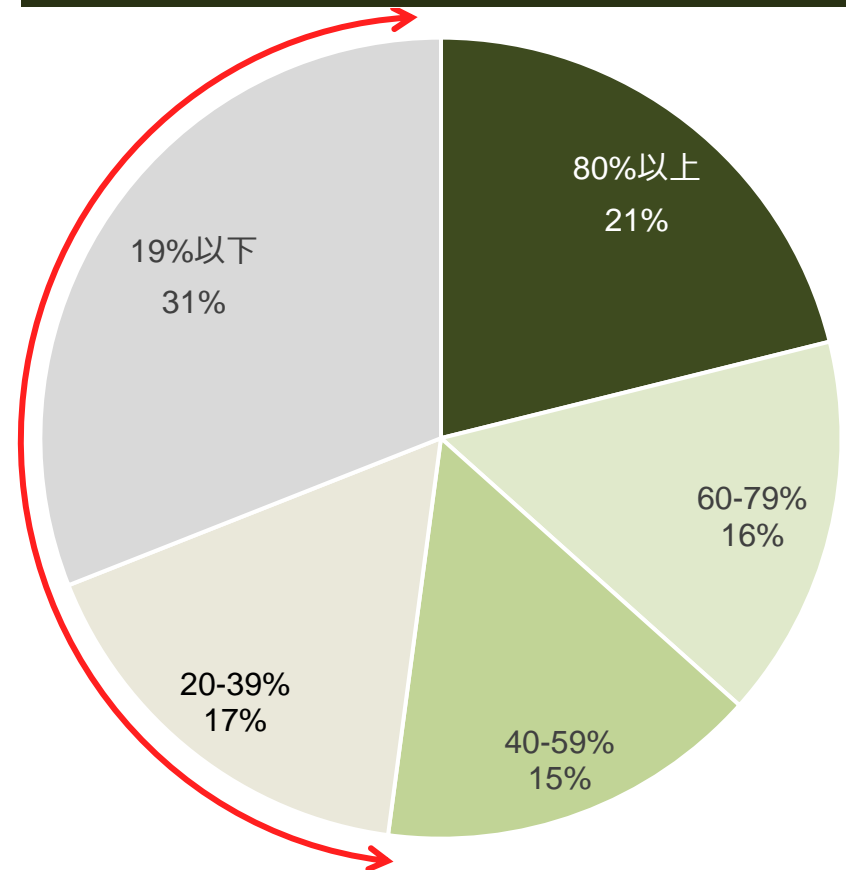


利用者数 (2022年10月)



n=73

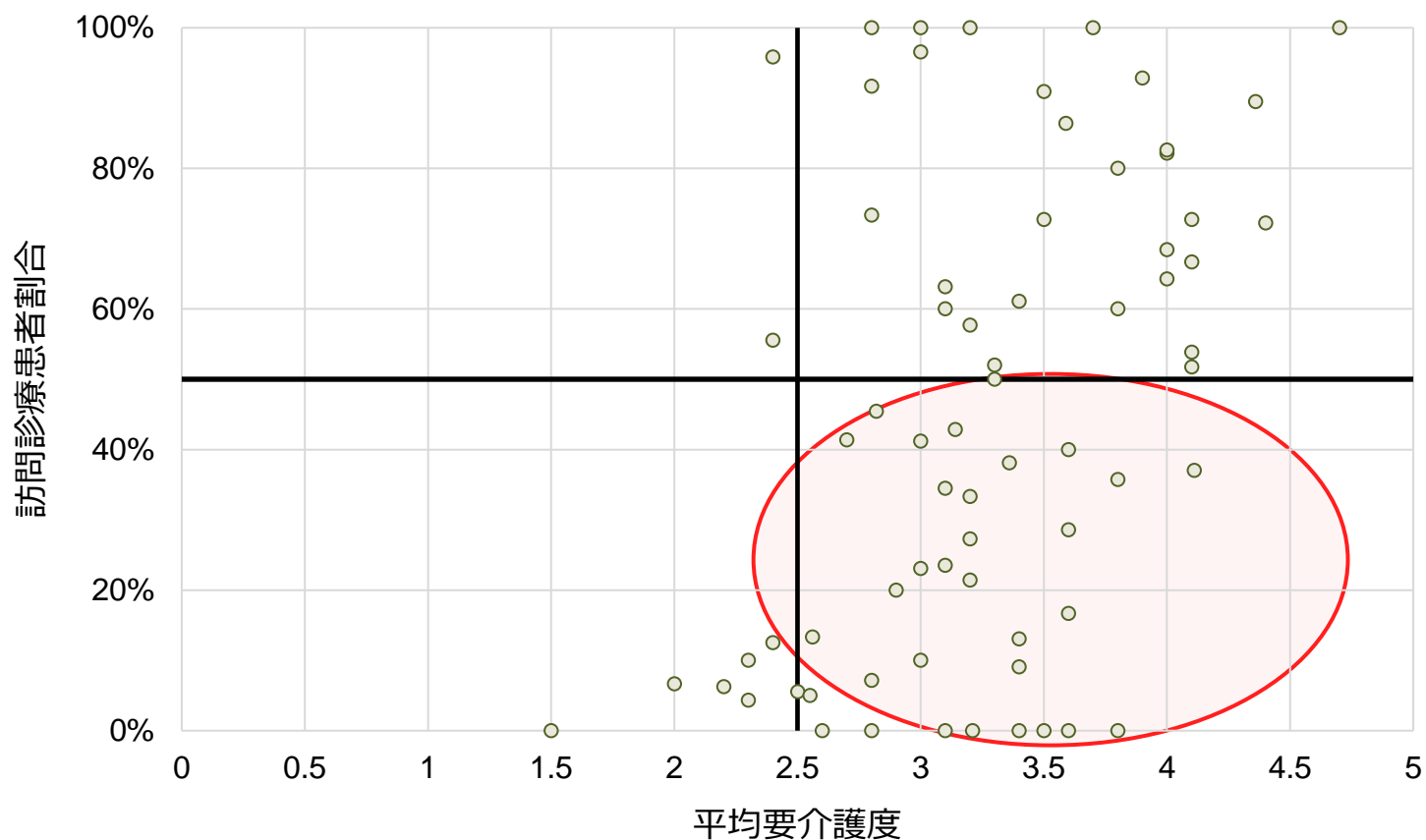
訪問診療が入っている利用者割合



訪問診療と平均要介護度

- 平均要介護度が高い（3.0以上）にも関わらず、訪問診療が介入している割合は低い事業所が多い。

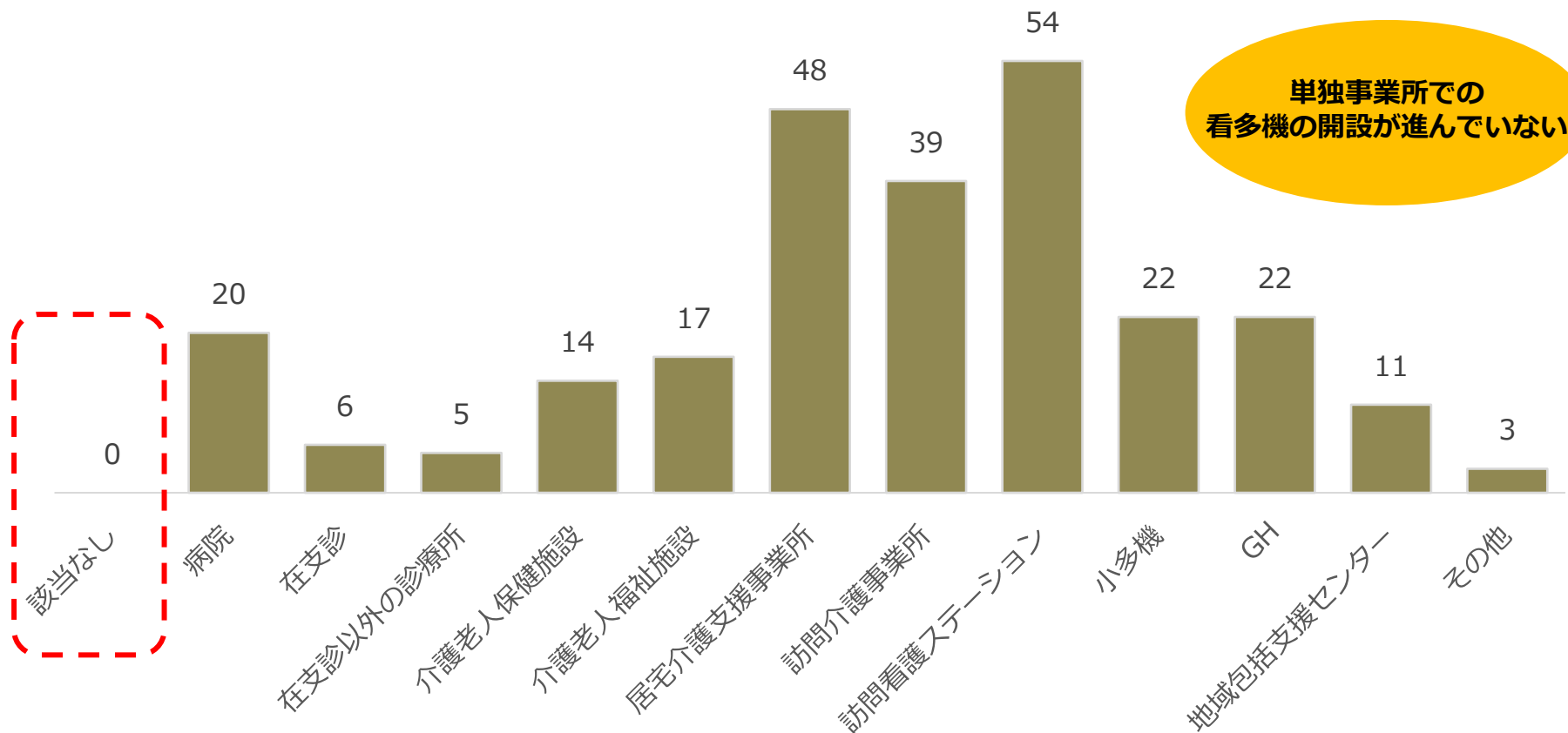
訪問診療が介入している利用者割合と平均要介護度



運営している併設施設・事業所

- 看多機を単独で運営している事業所はなく、介護事業所を他に運営していることが多い。

他に運営している施設・事業所（複数回答）



n=73

通所介護等における口腔衛生管理や栄養ケア・マネジメントの強化

- 通所系サービス等について、介護職員等による口腔スクリーニングの実施を新たに評価する。管理栄養士と介護職員等の連携による栄養アセスメントの取組を新たに評価する。栄養改善加算において、管理栄養士が必要に応じて利用者の居宅を訪問する取組を求める。【告示改正】
- 認知症グループホームについて、管理栄養士が介護職員等へ助言・指導を行い栄養改善のための体制づくりを進めることを新たに評価する。

- 栄養改善加算 150単位/回 (※1月に2回を限度) → 栄養アセスメント加算 50単位/月 (新設)
栄養改善加算 200単位/回
- 口腔機能向上加算 150単位/回 → 口腔機能向上加算 (I) 150単位/回
口腔機能向上加算 (II) 160単位/回 (新設) (※原則3月位内、月2回を限度)

褥瘡マネジメント、排せつ支援の強化

- 施設系サービスにおける褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算について、状態改善等（アウトカム）を新たに評価する等の見直しを行う。【告示改正】

- 褥瘡マネジメント加算 10単位/月 → 褥瘡マネジメント加算 (I) 3単位/月 (新設)
褥瘡マネジメント加算 (II) 13単位/月 (新設)
- 排せつ支援加算 100単位/月 → 排せつ支援加算 (I) 10単位/月 (新設)
排せつ支援加算 (II) 15単位/月 (新設)
排せつ支援加算 (III) 20単位/月 (新設)

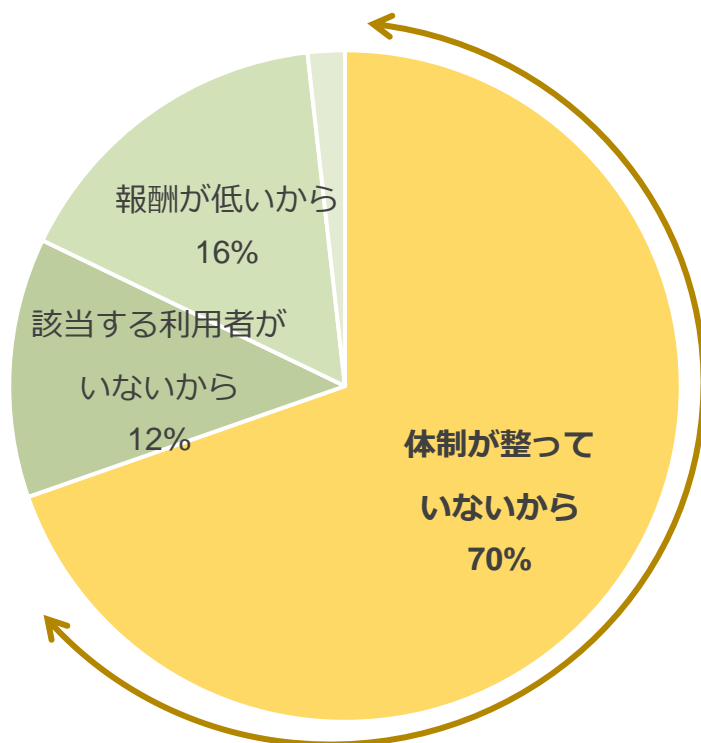
各種加算の算定と算定していない理由①

- 栄養改善加算/栄養アセスメント加算、および口腔機能向上加算については、算定している事業所が非常に少なく、その理由として「体制が整っていない」とする事業所が65%以上を占める。

栄養改善加算/栄養アセスメント加算

算定している事業所：4 / 73

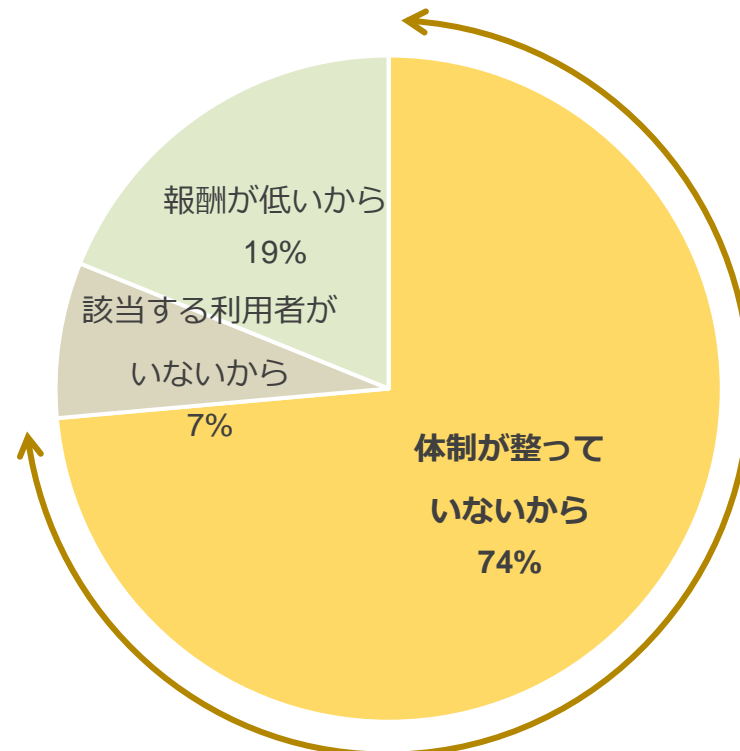
算定していない理由



口腔機能向上加算

算定している事業所：4 / 73

算定していない理由



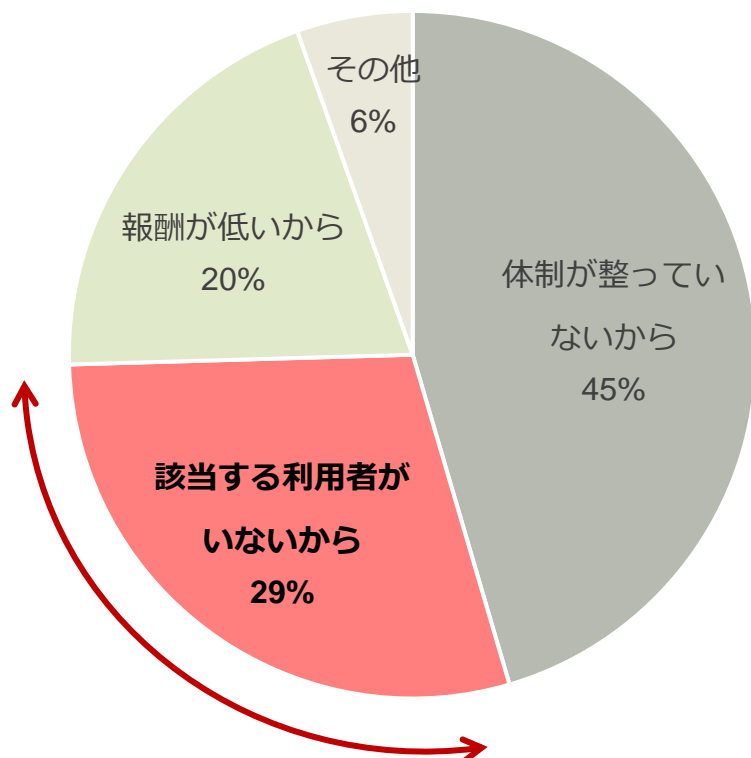
各種加算の算定と算定していない理由②

- 褥瘡マネジメント加算および排せつ支援加算についても同様に算定している事業所が少なく、褥瘡マネジメント加算は「該当する利用者が少ない」、排せつ支援加算は「報酬が低い」という理由が多く挙げられる。

褥瘡マネジメント加算

算定している事業所：4 / 73

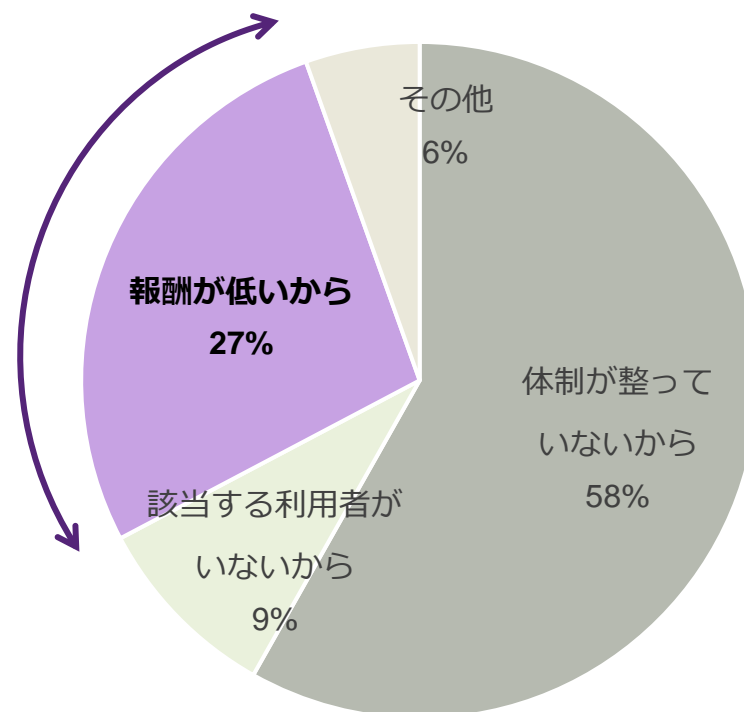
算定していない理由



排せつ支援加算

算定している事業所：5 / 73

算定していない理由



運営の実態から見える課題

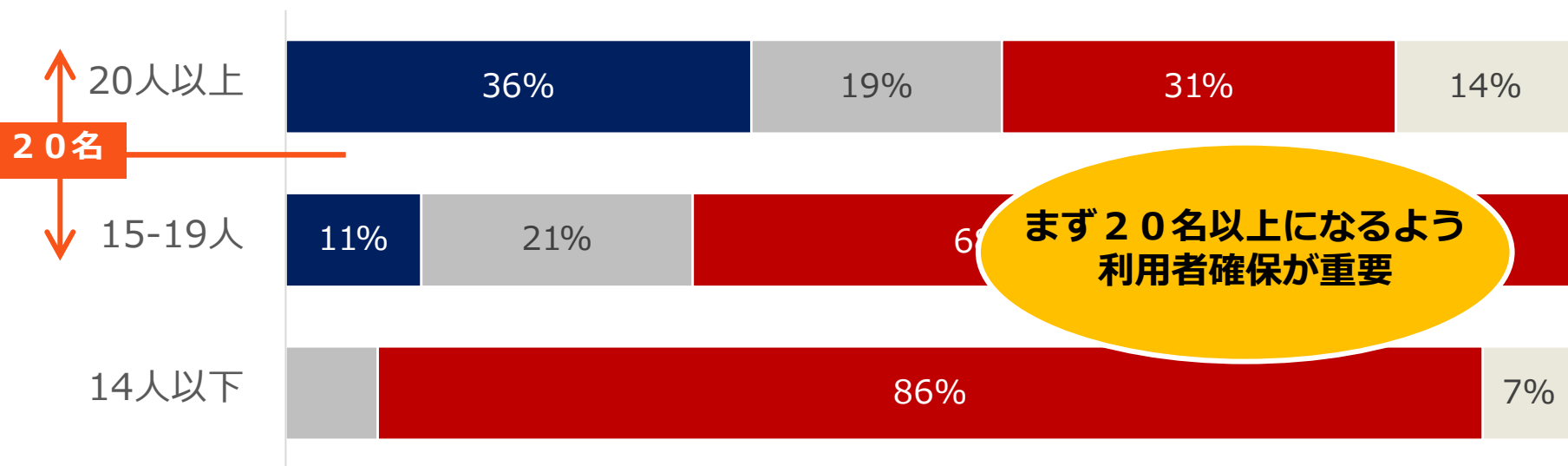
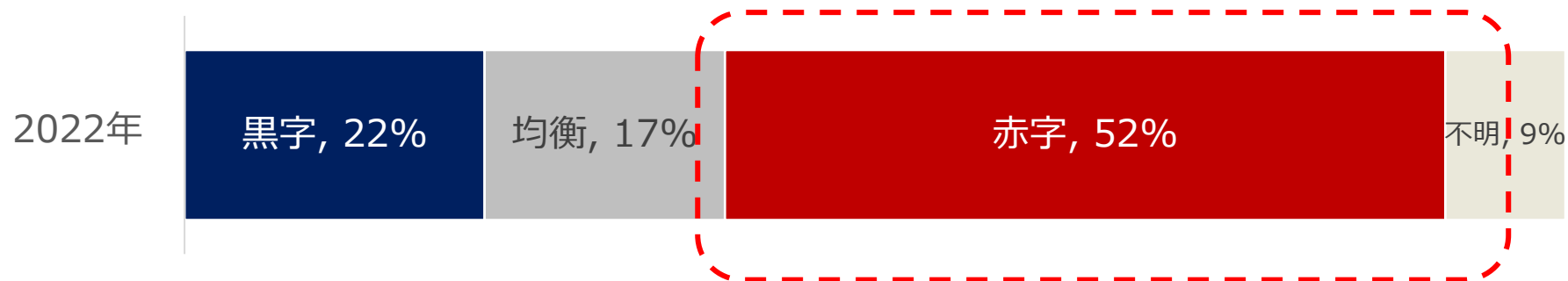
- 登録定員は最大の29名としている事業所が過半数であるが、登録定員と実際の利用者数は一致しない。
 - 実際には利用者数20名以下の事業所が過半数を占めている。
- 半数以上の利用者が訪問診療を受けていない。
 - 平均要介護度3.0以上で医療依存度が高い利用者を受け入れているが、訪問診療を受けている利用者割合が半数以下となっている。
- 看多機単体での運営は少ない。
 - 訪看ステーションや訪問介護事業所、病院など様々な形で協働しているケースが多い。
- 新設された加算を算定している事業所は少なく、実態に伴った加算となっていないことが推察される。
 - 体制が整っていないことや該当する利用者が少ないといった理由が非常に多く挙げられていた。

登録定員が年々増加しているものの、実態として医療依存度が高い方を受け入れることは難しく、事業所単体での経営は困難である。
また、新設の加算についても実態に伴った設定になっているとは考えにくく、算定できる事業所は少ないことが伺える。

収支の視点を踏まえた分析

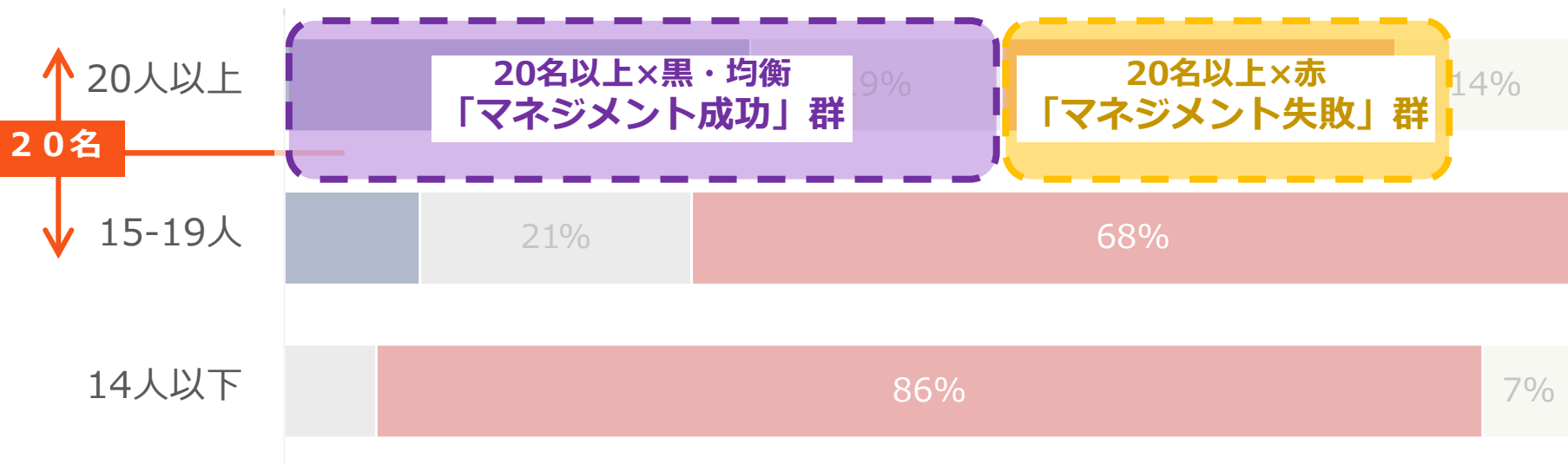
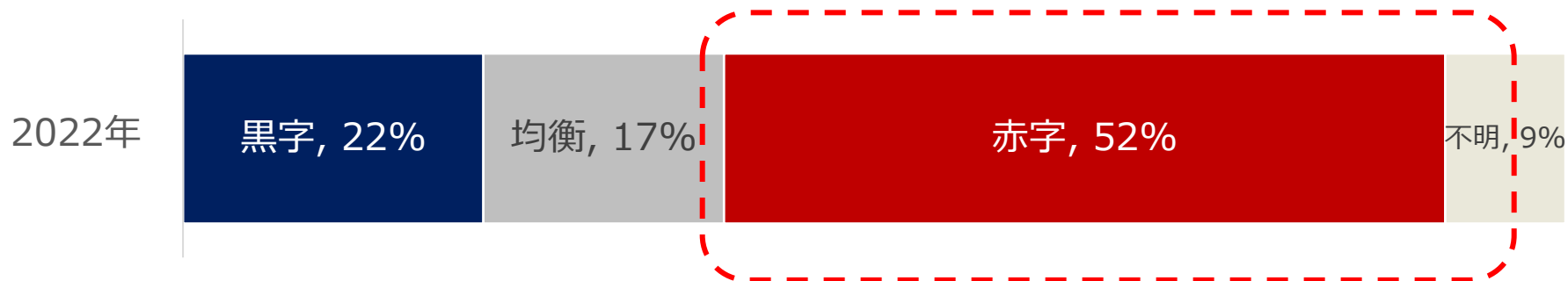
看多機黒字化の目安

- 黒字事業所が増えてきている一方、半数以上は赤字。利用者数20名以上で「黒字・均衡」が増加。



看多機黒字化の目安

- 利用者が20名以上の事業所のうち、黒字もしくはは均衡している事業所を「マネジメント成功」群、赤字事業所を「マネジメント失敗」群として比較してみる。

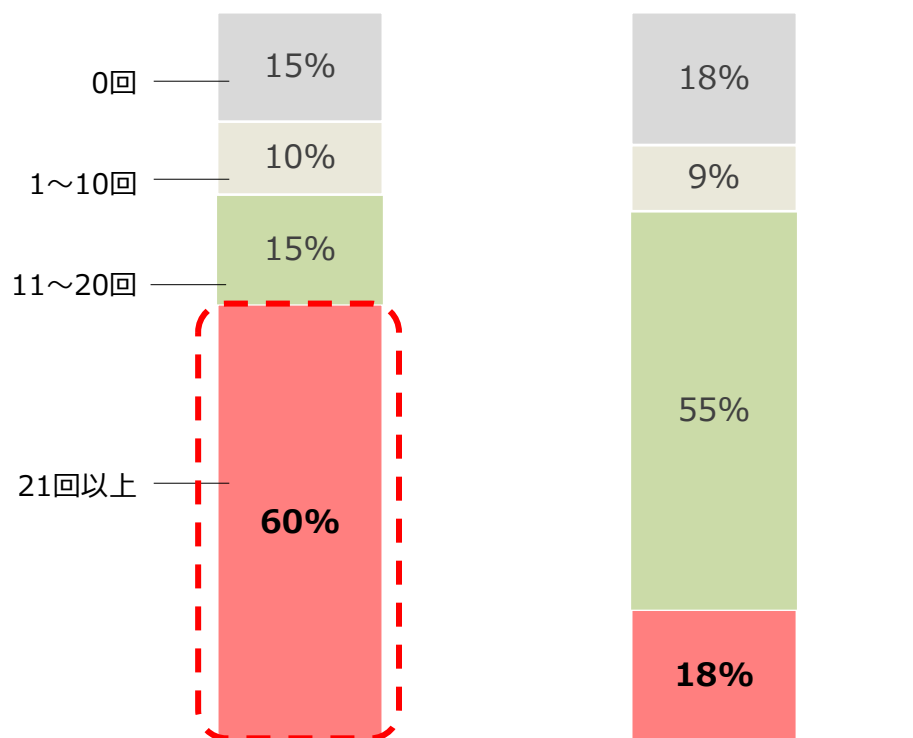
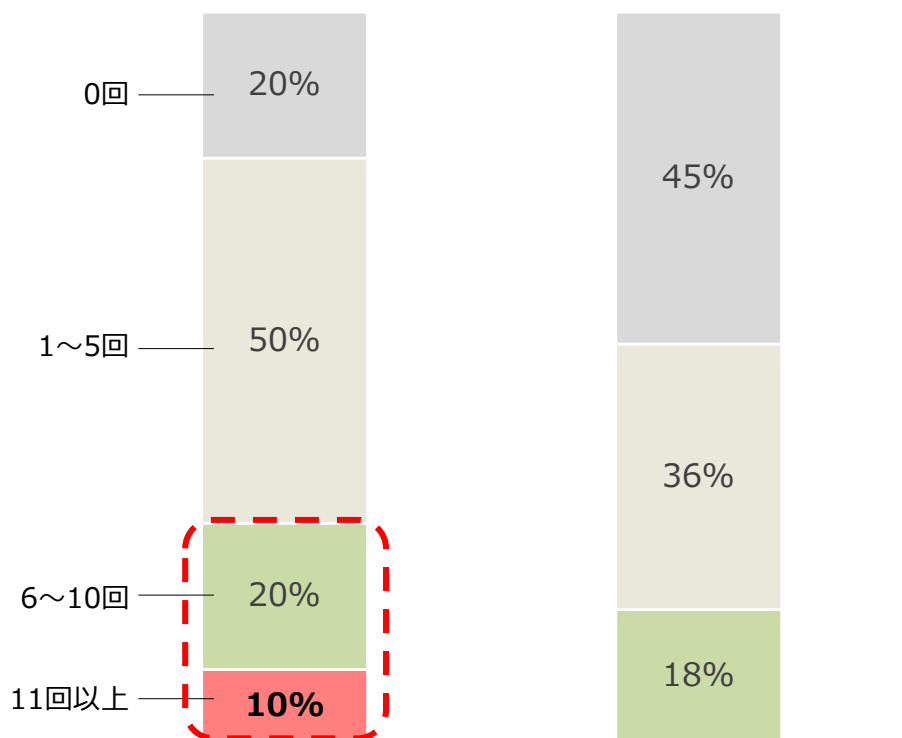


収支と各種加算の算定回数①

- ターミナルケア加算の算定回数が多く、6回以上の事業所が多い。
- 緊急時訪問看護加算についても同様に、21回以上算定している事業所が多い。

「ターミナルケア加算」の算定回数/年

「緊急時訪問看護加算」の算定回数/月



20名以上×黒字・均衡

20名以上×赤字

20名以上×黒字・均衡

20名以上×赤字

マネジメント
成功群

n=20

マネジメント
失敗群

n=11

マネジメント
成功群

n=20

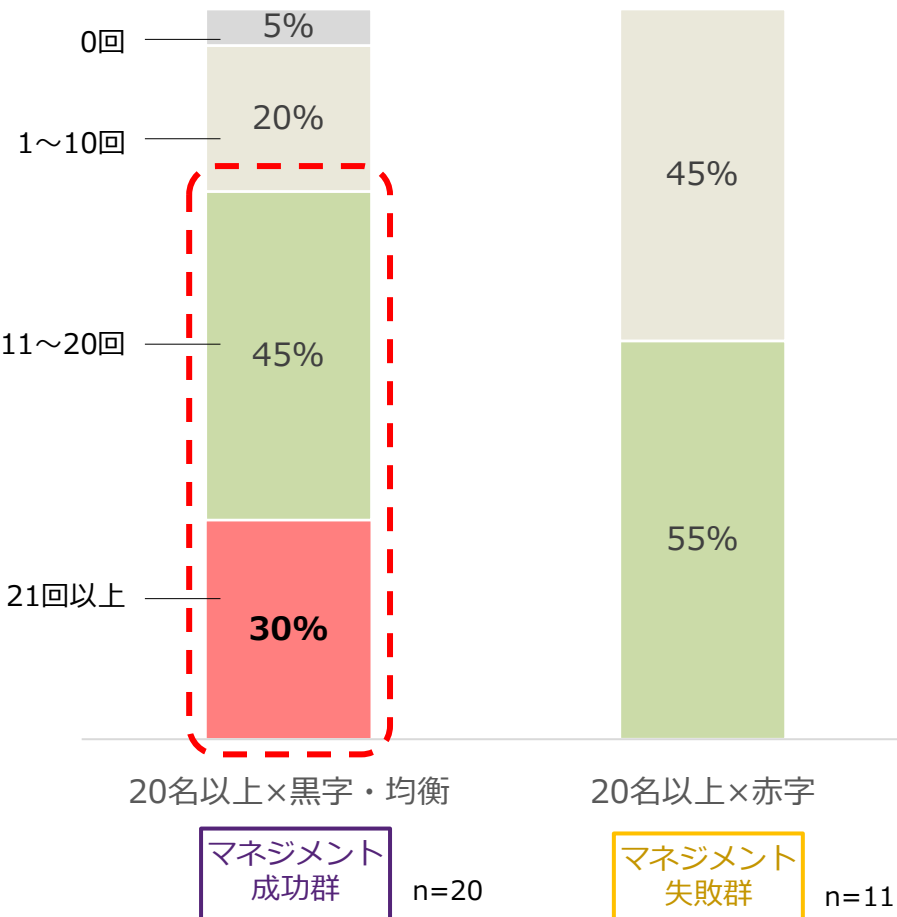
マネジメント
失敗群

n=11

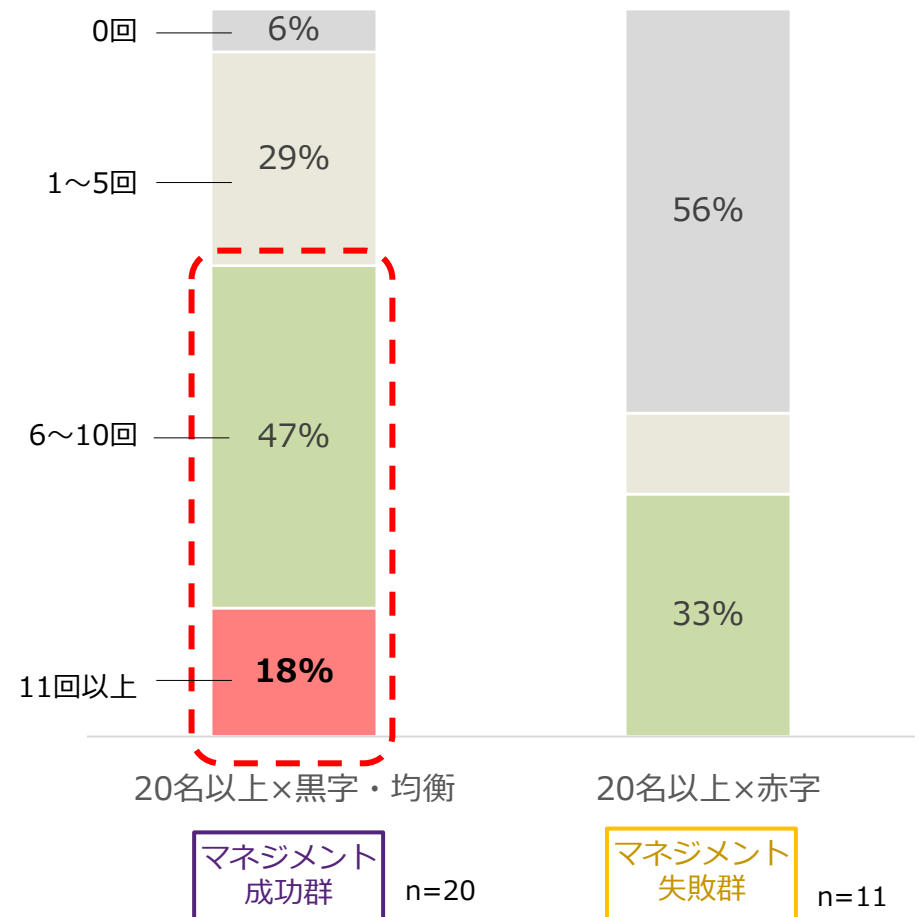
収支と各種加算の算定回数②

- 認知症加算の算定回数にも差があり、「マネジメント成功」群は11回以上算定している事業所が多い。
- 特別管理加算も同様であり、「マネジメント成功」群は6回以上算定している。

「認知症加算 I・II」の算定回数/月



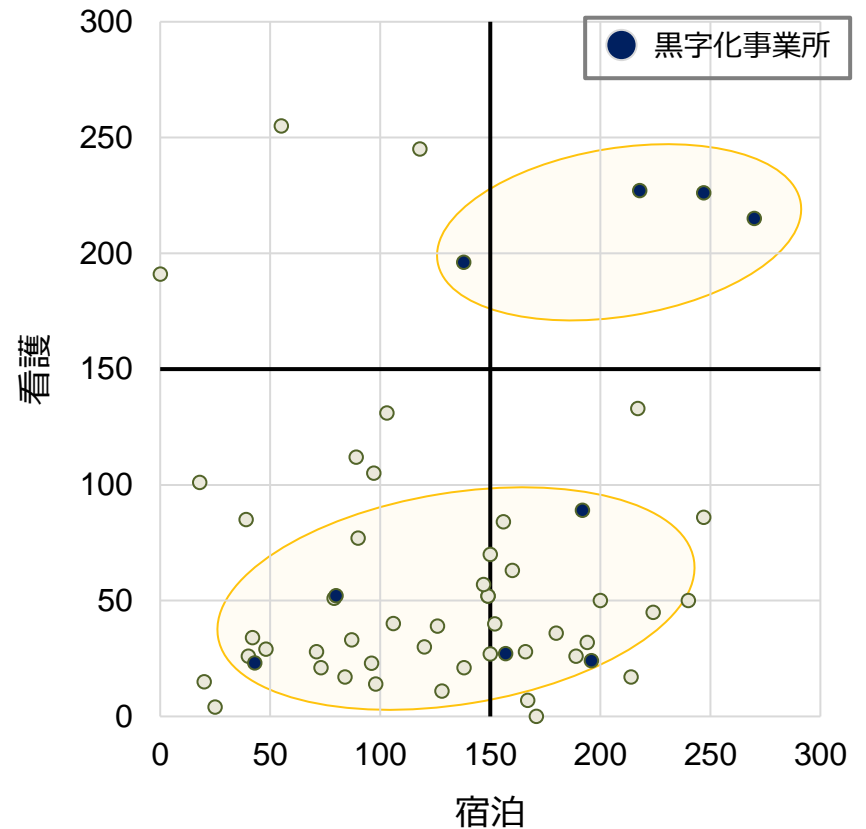
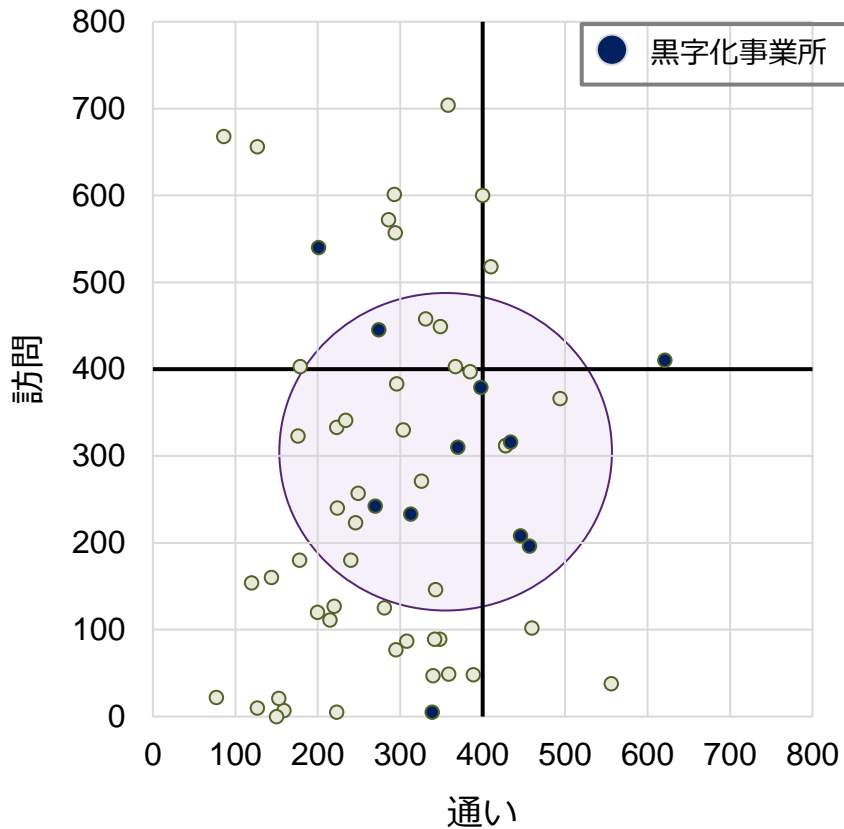
「特別管理加算 I・II」の算定回数/月



収支とサービス提供の関係

- 通いと訪問の提供回数は大体それぞれ400回/月だと黒字化している印象
- 看護の回数は少なく、宿泊についても室数の問題もあるが150回/月を超えると黒字化している傾向

1ヶ月の合計提供回数分布



収支の実態から見える課題

- 利用者が20名以上受け入れている事業所が黒字化する傾向があり、未だ大半以上は赤字経営を余儀なくされている。
- 更に、利用者を20名以上受け入れているにも関わらず、赤字経営となっている事業所はいくつかの加算取得状況が起因していることが推察される。
 - 黒字化事業所は、**ターミナルケア加算**を年6回以上算定、**緊急時訪問看護加算**を月21回以上算定している事業所が多い。これらのことから**看取り期の利用者を多く受け入れている**ことが考えられる。
 - **認知症管理加算**を月21回以上算定、**特別管理加算**を月11回以上算定している事業所が多い。看取り期の利用者が多いことに加えて**医療依存度も高い利用者**を継続して受け入れていると考えられる。
- 4つのサービス提供の傾向から、**宿泊サービスを1月150回**提供している事業所は黒字化している。

利用者数を20名以上確保していても赤字となる事業所が多く存在し、黒字化の目安として、いくつかの加算の算定回数が挙げられるため、医療依存度が高く、看取りが近い利用者を受け入れられるキャパシティが必要であることが考えられる。